



## 刺激だらけの半年間

平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月

北海道教育大学釧路校地域学校教育専攻 教育理論計画 留学

平良 佳那子

(琉球大学教育学部教育実践学専修)

最初に北海道に着いたのは 9 月の終わり頃でした。飛行機、電車、高速バスを乗り継ぎ釧路に到着した時はもう真っ暗で、沖縄とは違ったひんやりとした空気、温度差にみんなで騒いでいました。知らない土地での生活に少し不安な気持ちはありましたが、これからどんな半年が待っているのかと期待感でいっぱいでした。交換留学中には、道東をはじめ、道北、道央、道南と北海道の各地周ったり、たたら製鉄や冬のフィールド等の授業、1 週間泊まりがけのフリースクールでの活動、酪農体験など書き切れないほどたくさんの経験をする事ができました。その中でも、特に北海道の自然の素晴らしさと、出会った人たちからたくさんの刺激をもらったと感じ、この報告書に記そうと思います。

北海道の自然の素晴らしさは、半年間の季節の変化を通して何度も感じる事ができました。留学が始まった 10 月の北海道は秋晴れの青い空と、鮮やかな緑の草原がずっと続いていました。広い牧草地には、牛や馬などの動物がたくさんいて、沖縄では見る事のできない景色にとっても興奮したのを覚えています。11 月頃にはちらちらと雪が降り始め、いつの間にか膝くらいまで積もり、寮の前の公園でそり遊びをしたり、かまくらを作ったり、スノーボードをしにいったりできるようになりました。雪景色や雪遊びはととても新鮮でした。雪とのふれあいで特に印象に残っているのは、冬のフィールド演習での体験です。その授業では、歩くスキーで屈斜路湖や網走の流水を見に行きました。木の枝に雪が積もり、辺り一面真っ白の光景は別世界に来た様でとても神秘的でした。これら以外にも、知床や釧路湿原など北海道の自然はどれも壮大で、半年間を通して感動させられるものでした。

そして、人との出会いも交換留学を通して得たものの一つです。私は人見知り激しく、北海道の人たちと仲良くなれるか少し不安でした。しかし、琉球大学に留学していた 8 人をはじめ、研究室のみんなや寮の人たちが琉大生をととても歓迎してくれました。特に研究室のみんなは学年関係なくとっても仲が良く、いつも琉大生を楽しませようとしてくれました。酪農体験に連れて行ってくれたり、かまくらの中ですき焼きをやったり、小樽や旭川旅行にも連れて行ってくれました。最初の私の不安とは反対に、たくさんの人と関わることができ、たくさんの思い出ができました。また、北海道の人たちとの関わっていく中で、みんなの活動意欲や行動力にととても刺激を受けました。釧路校には海外での活動やボランティアがあり、学生たちは積極的にその活動に参加していました。自分が学びたいこと、やりたいことに積極的に取り組むみんなの姿にはととても刺激を受け、私もやりたいことにどんどん挑戦していこうと思うようになりました。留学を通して出会った人たちにはととても感謝しています。

北海道での半年はあっという間に過ぎました。今でも留学中の写真を見ると北海道での生活が鮮明に思い出されます。沖縄の外で生活する中で見たもの、感じたものは、私の今までの価値観や視野を大きく広げてくれました。本当は留学の申請書を出す時迷いもありましたが、北海道での半年を振り返ると、心から参加してよかったと感じています。あの時ちょっと勇気を出して決断したお

かげで、多くのことを得ることができました。早くまた北海道に行ってみみんなに会いたいです。

